

中国語と日本語の分裂構文における構文的拡張 —存在・所有の意味の継承を中心に—

The Extension of Cleft Constructions in Chinese and Japanese:
With Special Reference to the Inheritance of Possessive Meaning

楊 竹楠[†]
YANG Zhunan

Abstract Within the framework of Construction Grammar (Goldberg 1995), constructions occurring in the same network are linked by inheritance relations and they can become polysemous through extensions from a prototype category. For example, there is a Chinese construction “you de shi X” (What they have is X). It is a combination of the possessive construction “you” and the cleft construction. Its meaning contains the information of large quantity as well as possession. However, the parallel construction in Japanese conveys the possessive meaning only. This study aims to investigate the differences in the extensions and the motivation of cleft constructions between Chinese and Japanese. The results reveal that the extension of construction in Chinese is more developed compared to Japanese. The differences in the motivation of extension depend on the rhetoric expressions of “you” and the metonymy of “de” in the Chinese cleft construction.

1. はじめに

焦点化の手段の一つとなる「分裂構文 (cleft construction)」は、一般的には前提 (presupposition) と焦点 (focus) が分裂した構文とされている。例えば、非分裂構文 (1) に対して、中国語では“是”を使った“...的是...”構文 (2a)、日本語では「...のは...だ」構文 (2b) が挙げられる。

- (1) a. 花子 吃了 蛋糕。
花子 食べた ケーキ
b. 花子はケーキを食べた。

- (2) a. 花子 吃 的 是 蛋糕。
花子 食べる NMLZ COP ケーキ
b. 花子が食べたのはケーキだ。

一方、中国語の“...的是...”構文のうち、そのまま日本語に訳すと成立しない用例が存在する。(3a) のような“有的是...”構文は、日本語では「...のは...だ」構文 (3b) に直訳すると意味が変わってしまう。

- (3) a. 以后 有 的 是 机会。(CCL¹)
今後 ある NMLZ COP チャンス
(今後チャンスがいっぱいある。)
b. ? 今後あるのはチャンスだ。(筆者訳)

この構文の形式から見れば、中国語の“有的是...”構文は“...的是...”分裂構文と存在・所有を表す“有”構文の共起になるといえる。このように、構文の共起によって中国語の“...的是...”分裂構文はもとの意味から離れた周辺的な意味が見られ、これがどのような動機付けで拡張しているか検討の余地がある。以下、“有的是...”構文を対象に、分裂構文が他構文と共起する場合、

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター (豊田市)

¹ CCL(Centre for Chinese Linguistics PKU)中国語コーパス

意味の継承と拡張の動機付けを検討し、日中両言語に見られる構文的拡張の相違を明らかにする。

2. 先行研究と理論背景

これまでの中国語の“有的是…”に関する主な研究において、“有的是”は語彙化によって生じるものと認識されるのが一般的であり、その意味の生成過程は“有”、“的”、“是”それぞれの意味変化に関わると述べられている(王¹⁾ 2006, 刘²⁾ 2010)。また、朱³⁾ (1978) は“有”が“…是…”分裂構文と共起する場合(4a)、及び…的…分裂構文と共起する場合(5a)を比べたうえで両者の相違を述べた。すなわち、(4a)は“有”の焦点化であり、「お金はないのではなく、持っている」ということを意味する。それに対して、(5a)は“钱”の焦点化になり、「持っているのはほかのものではなく、お金だ」という意味である。したがって、後者は「持っているもの=お金」と理解できる。

(4) a. 钱 是 有 的 (朱 1978: 105)

お金 COP ある 語気助詞

b. お金はあるのだ (筆者訳)

(5) a. 有 的 是 钱 (朱 1978: 105)

ある NMLZ COP お金

b. あるのはお金だ (筆者訳)

さらに、張⁴⁾ (2016)、刘⁵⁾ (2016) は“S 有的是 NP”の形に基づき、S と NP の関係を分析したことに加え、構文として“S 有的是 NP”の意味を再分析した。その結果、“S 有的是 NP”構文は話者の主観性が含まれている構文であるという結論を出した。

先行研究においては、この構文の意味の分類と分析、またはこれらの構文が成立する過程において、形式的にはどのような変化が見られるかを中心に分析している。しかし、なぜこのような構文は中国語で成立できるか、またその動機付けは中国語のどのような特徴に関わるかについてはあまり説明されていない。この問題を明らかにするために、他言語と対照する視点からも検討する必要があると考えられる。

本研究は構文のアプローチから考察していきたい。Goldberg⁶⁾ (1995) による構文理論では、構文は形式と意味の結合体として定義される。特に構文論的アプローチは、動詞の意味・用法からは予測されないパターンに関しても妥当な説明を与えられる。特に定義から見れば、構文は「意味と形式の対応物」であり、広義的には「い

かなる言語パターンも、その形式的・機能的側面が、その構成要素あるいは他の構文から厳密に予測できない場合、それを構文」として認める(河上他訳⁷⁾ 2001: 6)。この説明から見れば、中国語では存在・所有の意味で使われる“有”も一つの構文として見なすことができ、“有的是…”構文は、“有”と“…的…”分裂構文の共起であるといえる。Van de Velde et al.⁸⁾ (2015) はこのような現象を複数の構文の共起と見なしている。

さらに、Goldberg (1995: 67-100) によると、構文間にあるネットワークは、ある構文が持つ特性を動機づける継承関係によって構築されているということである。具体的には多義性のリンク (polysemy links)、部分関係のリンク (subpart links)、具体例のリンク (instance links)、メタファー的拡張リンク (metaphorical extension links) の四つに分けられている。この四つのリンクによって、構文と構文の間にネットワークが構築されている。また構文間のリンクは多重継承 (Multiple Inheritance) も認められている (Goldberg 1995: 73)。

本研究は上述した構文間のリンクに着目して、中国語を中心に、日本語との対照を通じて“…的…”分裂構文と存在・所有構文が共起する場合の形式と意味、拡張の動機付けの分析を行う。

3. 考察

以下、中国語における存在・所有構文と共起する“…的…”分裂構文の形式と意味を整理し、日本語と対照をしながら、両言語の相違を明らかにする。

3・1 構文のプロトタイプの意味

“有的是…”構文の形式とプロトタイプの意味について中国語と日本語は共通し、(6) に示すとおりである。

(6) 形式：存在・所有構文+的…のはXである。
意味：存在・所有するものはXであることを強調する。

中国語において、存在・所有構文と“…的…”分裂構文が共起すると、一般的には“…的…”が二回現れる。つまり、文の前後が対比する意味を持ち、“有的是…”を否定の“没有(ない・持っていない)的…X”や他の動詞が使われる“V的…X”と比較することになる。例えば(7)の場合、動詞“用(使える)”の対象は“银子(銀貨)”、“有(ある)”の対象は“货物(商品)”であり、両者が異なることを意味する。この場合、日本語でも同じく存在・所有構文という形を使うことが可能である。

- (7) a. 我们 用得着的 是 银子,
我々 使える NMLZ COP 銀貨
有 的 是 貨物。(CCL)
ある NMLZ COP 商品

b. 我々が使えるのは銀貨で、持っているのは商品だ。(筆者訳)

(8) も同様に、“有(ある)”の対象は“钱(金)”であり、“没(ない)”の対象は“官(官僚)”である。すなわち、「お金」と「官僚」の対比によって、「お金」を焦点化する機能を持っている。

- (8) a. 家里 有 的 是 钱,
家の中 ある NMLZ COP 金
没 的 是 官。(CCL)
ない NMLZ COP 官職

b. 家にあるのはお金で、ないのは官職だ。(筆者訳)

以上 (7) (8) で示されるように、存在・所有構文と“...的是...”分裂構文が共起する場合、日本語にも直訳することができる。つまり、両言語のプロトタイプの構文の意味が共通していることがわかる。

3・2 構文的拡張的な意味

次に、中国語では同じく“有的是...”という形になる構文であるが、プロトタイプの意味とは異なった拡張の意味を持つ構文を分析する。この場合、日本語では「...のは...だ」分裂構文の形と直訳できないと考えられる。

- (9) a. 他 有 的 是 钱,
彼 ある NMLZ COP 金
才 肯 出 到 这个价。
こそ 同意 出す 至る この値段

彼はお金がいっぱいあるからこそ、この値段をつけたことに同意した。(CCL、筆者訳)

b. *彼が持っているのはお金だからこそ、この値段をつけたことに同意した。(筆者訳)

(9a) “有的是钱”というのは、「お金を持っている」だけでなく、「たくさん持っている」ことを意味する。中国語では、このような“有的是...”の構文の意味を“主観大量”(感覚において量が大きいこと)を表すと説明し、持

っているものが大量であることを強調することになり、修辭的には「誇張法 (hyperbole)」でもある。さらに、“有的是...”構文の後ろの名詞はプラス的な意味のものに限定される (10)。

- (10) * 有 的 是 垃圾 (作例)
ある NMLZ COP ゴミ
(ゴミが大量にある)

以上をまとめると、中国語の“有的是...”の構文の形式と意味は以下に示すように、(11) から (12) までの拡張が見られるが、日本語では拡張が見られない。

(11) 形式：存在・所有構文+的是／のは X、
V 的是／のは Y である。
意味：比較によって、持っているそのものは X であることを強調する。

↓

(12) 形式：中国語：有的是 X (X はプラス的な意味のもの)。
意味：持っているもの X が大量であることを強調する。

3・3 構文的拡張の動機付け

温⁹⁾ (2012) によると、中国語の“有”は“凸顯”いわゆる焦点明示化の機能を持ち、これによって大量の意味を表すことができるということである(13)。“有的是...”構文も“有”構文の意味を継承しているといえる。

- (13) a. 那本书 我看了 有 三遍(温 2012: 32)
その本 私 読んだ ある 三回
b. その本は三回も読んだ。(筆者訳)

また、日本語において構文的拡張が見られないのは、修辭的相違も存在すると考えられる。これは中国語の“的”の機能に関わっている。沈¹⁰⁾ (1999) が、“的”の「転指 (メトニミー)」機能について説明している。例えば、(14) では“的”は人という意味まで含むことができるため、“开车的”の三文字のみで「運転手」の意味を表すことができる。

- (14) 开车的=开车的人=司机
運転の 運転の人 運転手
(沈 1999、グロスが筆者による)

このように、“有”構文は誇張法とメトニミーの修辭的

手段によって、多義になり、さらに“...的是...”分裂構文と共起すると、構文的拡張の過程と構文の継承リンクは図 1 のように示すとおりになる。

まとめると、まず“有”構文の形式は“有 X”であり、その中心義は X を持っていることである。これと共起する分裂構文は“...的是 X”という形式を用い、意味的には X の焦点化が中心義となる。二つの構文を融合して、中国語の“有的是 X。”が成り立っている。これは部分関係リンクによってつながっている。

次に、“有 X”には誇張法によって、「X を大量に持っている」という周辺義が生じ、“的”は転指機能すなわちメトニミーによって、“...的”は X と同じものを指すという意味の限定を表す。これは“有”構文と“的”構文それぞれの多義性によって生じる現象であるため、構文の間は多義性リンクによってつながっていることがわかる。

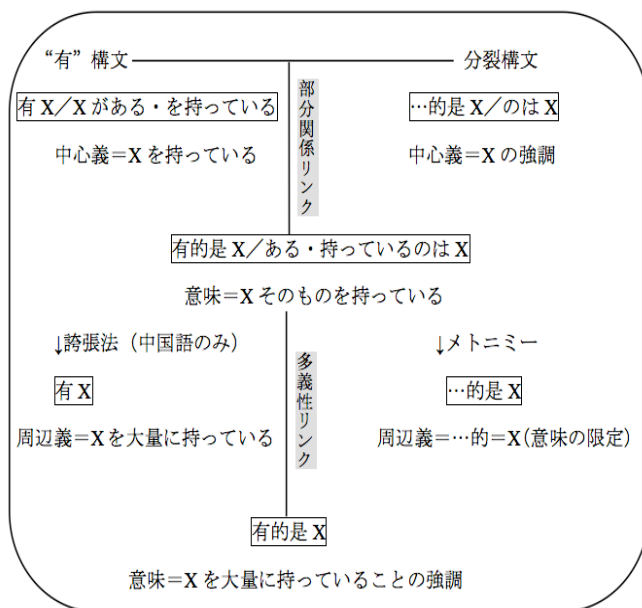


図 1 “有”構文と共起する分裂構文の拡張

4. “...的是...”分裂構文に拡張が見られる理由

以上の考察により、存在・所有構文と共起する“...的是...”分裂構文の用法の分布は、Goldberg の構文理論による、部分関係リンクとメタファー的拡張リンクによる拡張関係で記述されることがわかった。すなわち、中国語の“...的是...”分裂構文は、存在・所有構文と共起する場合、日本語に比べて構文的拡張が見られることである。なぜ“...的是...”分裂構文に限ってこのような拡張が生産的になるか、その理由として、“...的是...”構文の特徴から分析することが可能である。

先行研究でも触れたように、中国語の分裂構文は“...的是...”の形式のほか、もう一つ文末に“的”が使われる“是...的”構文がある。機能的には、両構文は役割を分担している。楊¹¹⁾(2017)では、中国語の両分裂構文の特徴を考察し、“...的是...”分裂構文において、焦点位置に生起できる要素は限られ、主語と目的語以外の要素が焦点化されることができない。そのため、主語と目的語以外の要素が焦点化される場合、もう一つの形式の分裂構文“是...的”構文を用いなければならないこと、一方、“是...的”分裂構文の方は、直接目的語の焦点化が容認されないことも明らかになった。

以下、羅¹²⁾(2009)の関係節類型論の名詞句接近可能性階層 (Noun Phrase Accessibility Hierarchy) (Keenan and Comrie¹³⁾1977) に基づいた分裂可能性階層 (Cleftability Hierarchy) を踏まえ、日本語の「...のは...だ」構文、中国語の“...是...的”と“...的是...”構文の分裂可能性階層を図 2 のように提示した。

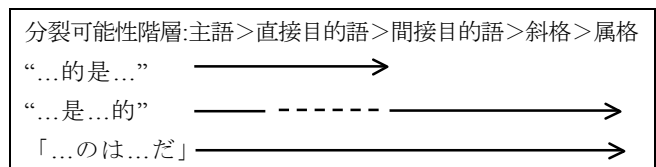


図 2 中国語と日本語の分裂構文の分裂可能性階層 (cf. 楊¹¹⁾ 2017)

すなわち、分裂構文の特徴からいうと、中国語の“...的是...”構文は、主語と目的語の焦点化が主な機能である。それに対して、もう一つの形式の“是...的”分裂構文においては、直接目的語を焦点化することができない。言い換えれば、直接目的語の焦点化は、“...的是...”構文によってしか成立しない。そのため、“...的是...”分裂構文において、プロトタイプの構文だけでなく、拡張構文も生起可能だと考えられる。

修辭的な特徴を持っている拡張構文の成立可能性について、山梨¹⁴⁾(2009)は以下のように説明している。

拡張の背後には、慣用的に容認された言語表現のパターン（ないしはプロトタイプ）の音韻・形態レベルから文法レベル、意味レベルにわたる創造的な転移（ないしはずらし）が認められる。（中略）一般に、諺、イディオムなどの慣用表現は、形式的にも意味的にも固定しており、基本的にその表現の一部に言語的な操作を適用することは許されないはずである。しかし、日常言語の柔軟で、創造的な伝達の文脈では諺やイディオムのような固定表現をずらした拡張表現が可能である。（山梨 2009: 197）

以上説明したように、“...的是...”分裂構文の特徴から考えると、中国語において直接目的語が焦点化される場合はこの構文しか用いられないため、拡張の発達が見られることを明らかにした。

修辭的な拡張が見られるのは、“有的是...”分裂構文だけでなく、近年インターネット用語や weibo (中国語版ツイッター) などの SNS では頻繁に使われる以下の構文においても見られる。

- (15) a. 哥 吃 的 不 是
1SG 食べる NMLZ NEG COP
面, 是 寂寞。
麵 COP 寂しさ

俺が寂しくラーメンを食べている。(筆者訳)

- b. *俺が食べているのはラーメンではなく、寂しさだ。(筆者訳)

(15a) は分裂構文が「X ではなく、Y だ」構文と共起することによって、ラーメンを食べる時の寂しい気持ちを表している。日本語では構造的に類似する構文が存在するが、このような用法は観察されない (15b)。中国語において、Y は X に対して、転移修飾 (transferred epithet) に類似する機能を持ち、このような拡張は X と Y のメトニミー関係と修辭的相違によって生じるものである (cf. 楊¹⁵⁾ 2017)。このような構文も中国語の“...的是...”分裂構文の拡張例の一つであり、上述した“...的是...”構文の特徴による生じるものと裏付けられている。

5. まとめ

本研究は、中国語の“...的是...”分裂構文と存在・所有を表す“有”構文が共起する“有的是...”構文の記述を行い、日本語と対照しながら当該構文にどのような構文的拡張が見られるかを分析した。構文とも他構文と共起することで構文の意味を継承し、部分関係リンクと多義性リンクによる拡張が見られることがわかった。“有的是...”構文では、中国語の“...的是”構文における構文的拡張が日本語より発達し、その動機付けは“的”のメトニミー機能、いわゆる修辭的な相違と中国語の“...的是”構文の特徴に起因している。

参考文献

- 1) 王建军: “有的是”源流探略, 语言教学与研究, 4, 74-78, 2006.
- 2) 刘志富: 习语“有的是”的词汇化, 语言教学与研究, 4, 63-68, 2010.
- 3) 朱德熙: “的”字结构和判断句, 中国语文, 2, 104-109, 1978.
- 4) 张爱玲: 主观大量词“有的是的”语义获得, 语言教学与研究, 1, 96-103, 2016.
- 5) 刘存伟: 对应关系: 汉语“S 有的是 NP”句的构式整合, 外国语文, 2, 106-113, 2016.
- 6) Goldberg, Adele E: *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, pp. 73-79, University of Chicago Press, Chicago, 1995.
- 7) Goldberg, Adele E. (著) 河上誓作他 (訳): *構文文法論—英語構文への認知的アプローチ*, p.6, 研究社, 東京, 2001.
- 8) Van de Velde, Freek, Hendrik De Smet and Lobke Ghesquière, "Introduction: On Multiple Source Constructions in Language Change," In Hendrik De Smet, Lobke Ghesquière and Freek Van de Velde (eds.), *On Multiple Source Constructions in Language Change*, pp1-17, John Benjamins Publishing Company, Amsterdam, 2015.
- 9) 温锁林: “有+数量结构”中“有”的自然焦点凸显功能, 中国语文, 1, 29-37, 2012.
- 10) 沈家焯: 转指和转喻, 当代语言学, 1, 3-15, 1999.
- 11) 楊竹楠: 分裂可能性階層から見る中国語の分裂構文の機能領域—日本語との対照を通じて, *KSL Proceedings* 37, 217-228, 2017.
- 12) 罗澄: 语言强调结构研究, pp.68-76, 武汉大学出版社, 武汉, 2009.
- 13) Keenan, Edward L. and Bernard Comrie, "Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar," *Linguistic Inquiry*, Vol8, No1, pp.63-99, 1977.
- 14) 山梨正明: 認知構文論—文法のゲシュタルト性, p197, 大修館書店, 東京, 2009.
- 15) 楊竹楠: 中国語と日本語の分裂構文における構文的拡張—否定意味の継承を中心に, *日本認知言語学会論文集*第17巻, 159-171, 2017.

(受理 平成 30 年 3 月 10 日)